



緑の地球新聞

第172号

2026年4月5日発行：公益財団法人 緑の地球防衛基金

いま名もない砂漠がふえている 私たちは次の世代へ緑の地球を贈ろう

〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館203
☎ 03 (3297) 5505 Fax 03 (3297) 5507
URL: <https://green-earth-japan.net/>
e-mail: defense@green.email.ne.jp
郵便振替口座 00110-9-161182 定価 ¥150



(写真1) ベトナムの地図
ラオカイ省は中国との国境沿いにあり、ベトナムの最北部に位置しています。
首都ハノイ（地図ではラオカイのやや右下に表示。）から約290km離れており、車、鉄道で約4時間かかります。植林現場は、このラオカイの中心地からさらに約100km奥まったところ。

3月から7月にかけて4〜5か月連続で高温が続く、1日の平均気温が28℃を超えた一方、最も寒い11〜2025年の平均気温は、例年とほぼ同じ約20℃でした。

植林地のあるベトナム北部は温帯性（亜熱帯）気候に分類されており、2025年の平均気温は、例年とほぼ同じ約20℃でした。

1. ベトナム・ラオカイ省植林事業地の概況

当基金が、2020年4月から2025年3月までの5年間、ベトナムで実施した「ベトナム・ラオカイ省環境保護植林事業」は、3万本の植林を行い、成功裏に終了しています。この度ベトナム政府から、本件事業の2025年フォローアップ報告が送付されたので、紹介します。

環境保護林が形成されつつある ベトナム・ラオカイ省植林事業 —2025年フォローアップ報告—

2月の平均気温は10℃に止まり、日によっては2℃まで下がることもありましたが、低温はしばしば霜を伴うため、作物の生育に大きな被害をもたらしたとのこと。

2. 苗木の生育状況

①馬尾松（タイワンアカマツ）の苗木
2020年8〜9月に2万7,000本植栽された馬尾松の苗木は、順調に成長しています。

2023年には、枯れた若木等に対応して1,000本の苗木を補植したこともありましたが、しかし、2025年には、雑草や蔓の除去などの手入れや枝打ちなど、森林保護対策のみが実施されました。現在の植栽密度（1ヘクタールあたり2,000本）で、すでに森林が形成されつつあること、苗木の生存率は約90%に達していることから、追加の補植は行われませんでした。



(写真2) 今般の植林地の風景。環境保護のための立派な植林地が形成されつつあります。

400本に止まっています。しかし、2025年度の1年間の生存数は、安定的に推移しています。2026年2月現在、生存しているカントンアブラギリの平均樹高は約6m、幹周約10cmに達し、しっかりと成長しています。



(写真3) 成長した馬尾松①。



(写真4) 成長した馬尾松②。

樹木を計測する担当者。2020年に2万7,000本植林した馬尾松。生育は良好で、樹高平均は4~8m、幹周約45cmに達しています。

3. 終わりにー植林事業を振り返っての所見

本件植林事業においては、①植林地が住宅地から離れているため、植林地の手入れのための移動が非常に困難だったこと、②植林地が急峻な地形で、多くの蔓や低木の成長が非常に早く、植林の世話をする地元の人々に多くの困難をもたらしたこと、③2022年から引き続き円相場的大幅下落(円安)のため、当基金からの助成金(円建て)がベトナム・ドンに換算して大幅に減価してしまい、その結果、事業資金の大幅な不足が生じるなど、様々な困難な出来事がありました。

ベトナム政府の報告によると、現在も、樹木の手入れや枝打ちなどの森林維持管理に必要な資金が不足して困っているとのこと。

しかし、こうした幾多の困難があったものの、植林事業を実施した5年間に加え、その後今日までの1年間、事業は概ね順調に実施され、当初計画された環境保護林がしっかりと形成されつつあります。

これは、ベトナム側の官民挙げての真摯な協力によるところが大きく、ベトナム側の対応に深く感謝するところです。

最後になりましたが、事業を遂行出来たのは、当基金の会員の皆様、及び貴重なご寄付をお寄せくださった多くの皆様のご協力の賜物であります。誌面をお借りして改めて心からの感謝を申し上げます。

「地球にやさしいカード」助成団体の2026年度の活動予定

「地球にやさしいカード」からの寄付金を原資とする当基金の助成事業(2026年度は14団体に助成)に関して、各助成団体の2026年度の活動予定を紹介します。

この制度は、「地球にやさしいカード」を利用してショッピングが行われた際に、カード利用額の0.5%に相当する金額が、三井住友カード株式会社から「緑の地球防衛基金」に寄付され、当基金を通じて、国内外で様々な環境保全活動に取り組んでいるNPOなどの各種団体に資金助成されるものです。

ちなみに2025年度の助成金実績は877万余円でした。

(熱帯林を守り育てるカード) NPO法人 熱帯森林保護団体

アマゾンには異常気象の影響のみならず諸々の開発により熱帯林が減少し、その結果、記録的な干魃と高温化で火災が急増しています。世界の熱帯林焼失の42%を占めるブラジルでは、前年の6倍の森林が焼失しました。

当会の支援対象地域も甚大な被害を受け、再生不可能な深刻な状況に陥っていますが、現地住民のカヤボ族、ジュルーナ族が熱帯林再生の策

として植林事業の援助協力を仰いできています。当会はアマゾンの回復を信じ、経費を含め1本千円でこの事業を開始します。

(尾瀬の自然を守るカード) NPO法人 尾瀬自然保護ネットワーク

尾瀬は特別天然記念物であり、残すべき自然資産として法的にも保護規定のある自然公園です。健全な自然があつての観光なはずですが、近視眼的な行政施策によりあるべき姿とは異なる方向に向かっていきます。当会は尾瀬を「次世代に自然環境をそのまま残そう」という志で活動を行っています。未だ道半ばです。

2026年度も、尾瀬ヶ原の環境DNA調査や野鳥、外来植物のモニタリングまた保護活動の後継者育成「尾瀬インタープリター養成講座」も実施します。

(立山連峰の自然を守るカード) NPO法人立山自然保護ネットワーク

過去21年間にわたって立山の山地帯高山帯で、種子散布源となっている地点を中心に外来植物の除去を進めてきました。

2026年度は、立山地域で未記載の雑種と思われるイタドリ形態

学的特徴や分布について解明する予定です。

富山県内の各種イベントで自然保護に関する啓発を行い、活動の裾野が広がるように努めます。室内例会や自然観察会を実施し、41年目のブナ活力度調査や、19年目となる呉羽丘陵でのモニタリングサイト1、000里地調査も継続します。

(白保のサンゴを守るカード) NPO法人 夏花

沖縄県石垣島の東海岸に位置する白保の海には北半球最大規模のアオサンゴ群集があり、国立の海中公園に指定されています。

2026年度は引き続き、沖縄県特有の環境問題である農地からの赤土流出防止対策としてのグリーンベルト植栽の実施や、年4回の赤土体積量調査、ロガーと呼ばれる水温計を設置し、年間の海水温変化のデータ化を実施します。さらに、底生生物の多様性調査、サンゴの成長、白化等の調査を行い、結果をHPやSNS、独自の新聞等で周知します。環境教育等については、サンゴ礁保全に関わってきた大学等と協働して新しい環境プログラムの開発に取り組む予定です。

(ヒマラヤの自然を守るカード) 認定NPO法人 ヒマラヤ保全協会

ヒマラヤ保全協会は、ネパール

ヒマラヤ地域の山岳農村部で、植林・果樹栽培のアグロフォレストリーを通じた環境保全活動を行っています。

今年度は、当会50周年記念事業として実施した、ポカラの駒ヶ根公園やトレッキング街道へのサクラ苗の景観創成植栽を継続します。

さらにネパール西部ダウラギリ県の遠隔農山村では、植林と果樹栽培(キウイ、レモン、ブルーベリーなど)、チーズ工房支援(パウダル村)、女性による紙漉き・機織り工房の支援(サリジャ村)、ムスタン・エコミュージアムの再生復興(ジヨムソム)など、自活自営支援で地域エンパワメントを推し進めます。

(ウミガメを守るカード) NPO法人 サンクチュアリーエビーオー

遠州灘海岸で繁殖する絶滅危惧種アカウミガメは、浜松市指定文化財で静岡県希少野生動物保護指定種です。

しかし現在、県および市は、繁殖地に隣接する地区にドーム球場の建設を計画しています。夜間照明は、ウミガメの繁殖行動に重大な影響を及ぼします。繁殖地を守るためには、今後も継続的な繁殖調査を続け、市民へ現状を伝えることが重要です。そのため、観察会の開催や署名活動を通じて理解と協力を呼びかけ、県および市に繁殖地保全を求める要望活動を継続しています。

(トンボの保護区を守るカード) NPO法人 桶ヶ谷沼を考える会

日本一のトンボの楽園「桶ヶ谷沼」の環境保護、特に絶滅危惧種ベッコウトンボ種の保全に努めています。

2026年度は、当会の40周年と、子供達との「自然塾」10周年が重なる大きな節目の年です。これまでの保護保全の取り組みを振り返るとともに、これから10年、20年先まで見据えた議論検討を行います。

もちろん保全保護活動は継続実施します。また沼本体からの確たる出現の為の活動に企画・実施を行います。人の手も不足しています。ご支援ください。

(トンボの保護区を守るカード) NPO法人 桶ヶ谷沼を考える会

20年間、耕作放棄地を田んぼに戻して、農業体験のイベントと、そこに生き物の住む場所を作っています。沢山のカエルと虫達を求めて、今年もサシバが子育てにやってきました。イベントでは、泥んこになりながら笑う子供たち。薪でお湯を沸かして、服ごと洗います。

地元、千葉県袖ヶ浦の団体主催の生物多様性映画のアフタートークで、地元で生息するリス、鷹などを紹介しました。知らなかったそうです。毎月の生態調査も10年以上続いています。

(ゾウを守るカード) 認定NPO法人 トラ・ゾウ保護基金

象牙目的の密猟によって絶滅のおそれが高まるアフリカのゾウにとつて、未だオープンに象牙を販売している日本の象牙市場は脅威です。ところが、希少種の国内販売を規制する種の保存法の改正は2027年へと先送りとなり、象牙販売の規制強化が盛り込まれるかどうか不明。

2026年度は、関係省庁、国会のほか、消費者へのはたらきかけも強化していきます。11月には、ワシントン条約会常設委員会に参加し、関係者に働きかけを行います。

(地球温暖化を抑えるカード) 真庭遺産研究会

岡山県北部中国山地の麓に広がる山村地帯は、全国最大のオオサンショウウオの生息地です。しかし、生息地の環境は大きく変化し、繁殖域の縮小や、個体数の減少が進行しています。加えて近年、チュウゴクオオサンショウウオの移入や侵入も懸念されるようになっていきます。

2026年度は、下和川水系および倉見川において、生息環境の保全と再生とともに、外来種の移入や侵入が起これないよう対策に取り組み、活動の規模拡大を進めます。

(地球温暖化を抑えるカード) 一般社団法人 髻林行動ネットワーク(JATAN)

熱帯林行動ネットワークは、2020年よりインドネシアのボルネオ島東部でオランウータン保護団体であるCOPと連携して、オランウータン保護活動の基盤となる植林を実施してきました。

2026年度は、COPが運営する保護施設の周辺でオランウータンの食糧となる果樹の植林に加え、保護林の境界周辺において野生のオランウータンと住民との衝突を防ぐ「緑の緩衝地域」を設けるための植林を実施する予定です。

(地球温暖化を抑えるカード)

NPO法人 NPOクワガタ探検隊

大阪北部の『明治の森箕面国定公園』が活動の舞台です。

活動の柱は、①四季変化「自然探検活動」、②地域イベントでの「創作昆虫紙芝居」、③カブトムシの「自然産卵養育場」、④クヌギ苗の「植樹活動」です。古来からの自然感(共生・畏敬・感謝)に基づいた直接体験を通じて、『未来の森の守り人』を育成しています。

2026年度も、協働(行政&公財&企業&地域)しての活動を継続します。(活動回数は、370回を超えています。)

(地球温暖化を抑えるカード)

NaO法人 Hope & Faith International

ネパール国ヌワコット郡ビドール

市で増える耕作放棄地を有効活用し、アグロフォレストリーの景観を維持発展させる環境保全プロジェクトを行います。将来的には、過疎化地域での環境保全モデルの一つになることを目標としています。

2026年度は、2年目になります。昨年度植樹したモリンガ、ウコン、アマラが概ね順調に育ってきています。その育成地域の拡大化を図り、アグロフォレストリーの景観維持・発展への理解を深め、村での意識向上、協力を求めます。また、耕作放棄地の自生樹木・作物の植栽方法などについて引き続き学びます。

(地球温暖化を抑えるカード)

公益財団法人 日本野鳥の会佐賀県支部

九州初で繁殖を続けるコウノトリの繁殖成功率を上げるために取り組んでいます。

現地は、子育て餌の大半をカエルやオタマジャクシに頼る環境です。そのため親鳥は、ヒナの孵る春先の周囲の餌事情で間引きの有無・羽数を決めます。気温に影響されず安定的に餌が確保出来る様、隣接するハス田に魚類を導入し増殖するための整備をします。

今年で5年目の繁殖ですが、ここ佐賀県白石町のコウノトリは、巣立ち前に12羽、巣立ち後3羽が落鳥する厳しい状況の中、命を繋いでいます。

**たくさんの使用済み切手など
ありがとうございました**

使用済み切手等売上表
(12月16日~3月15日)

未使用テレホンカード	0円
未使用/使用済み切手	162,865円
未使用/書き損じハガキ	27,270円
外国コイン&紙幣	0円
合計	190,135円

使用済み切手等協力者

(12月16日~3月15日敬称略)

新井剛、伊藤綾子、伊藤伸子、上村嘉枝子、上村真理子、川上洋一、岸裕子、埴城達矢、古賀智子、小林茜音、佐藤充、清水久美子、末松大輔、鈴木邦明、高橋ゆか、高島チェスナット尚子、田中麻貴、徳弘泰子、富沢千代、中塚徳子、中野寿人、中村千代子、福島尚子、福西邦子、堀博美、松原好彦、矢野美由紀、山谷享子、匿名

同法人・団体協力者

(12月16日~3月15日敬称略)

(社) 石川県社会福祉協議会、Umi's(株)、(株)太田組、柏市国際交流協会、(社) 北広島市社会福祉協議会、共和食品(株)、(株)さくら工業所、三光ライオンズクラブ、静岡県西部

出納室、清水建設(株)北陸支店、社会保険労務士法人見世事務所、住電装プラテック(株)、生長の家白鳩会東京第二教区連合会、積水ハウスシヤーマズンPM中部(株)、大成有楽不動産(株)、タチバナ工業(株)、「小さな親切」運動岡山県本部、(社) 津幡町社会福祉協議会、東京管理サービス(株)、(独) 都市再生機構九州支社、(公財) 豊橋善意銀行、ニッパツ・メック(株)、ネットヨタ富山(株)、豊後高田ライオンズクラブ、前田建設工業(株)、(株)ミルックス関東機材センター、(株)明誠、(株)守谷商会名古屋支店、(株)リブドゥコーポレーション、(株)ロムテック、和興フィルタテクノロジー(株)、(社) 輪島市社会福祉協議会

寄付協力者

(12月16日~3月15日敬称略)

大熊泰江、紙本園恵、(一社) ジャパン・カインドネス協会、(株)乗馬クラブクレイン、幅田博樹、東くみ子、三井住友カード(株)、森口修

事務局からのお願い

全国の皆さま、いつも使用済み切手などをお送り下さりありがとうございます。
当基金では、皆さまからお送りいただいた「未使用/使用済み切手」「未使用/書き損じハガキ」「外国コイン&紙幣」の売上金を植林活動等に役立てています。引き続き、ご協力の程お願いいたします。